

平成 25 年度第 1 回国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会  
(平成 25 年 9 月 11 日(水)14:30~17:00 谷津干潟自然観察センター会議室)  
議 事 概 要

(1) 今年度の業務内容と現地調査結果について

(P4 : 大型二枚貝類調査について)

委員 ・ ホンビノスガイが多く確認された地点は、流れが速いところと対応している様に見えるがどの様に解釈すればよいか。

事務局 ・ 幼生の着底が流速の影響を受けたため、このような分布になったと考えている。

(P5 : アオサの分布・腐敗状況調査について)

委員 ・ 夜間の干潮時に H<sub>2</sub>S が高いのは、風が止まることにより熱が籠もることと関係しているのではないかと思う。調査の余力があるならば、気温等の気象条件をチェックした方がよい。

委員 ・ 夜間に H<sub>2</sub>S が高いことは、潮位があまり低下しない干潮であることと関連はないか。潮位が濃度と関連しているのではないか。

・ 周辺の住民に臭いのモニタリングをお願いして、人の感覚と連続測定結果が対応するのかを確認してほしい。

事務局 ・ ウェブサイトを用いた住民参加モニタリングを企画しており、その運用により、周辺住民からの情報を集めたい。

委員 ・ 人が僅かに感じる程度のアオサの腐敗臭を測定できる機器はないのか。

事務局 ・ 適当な機器がない。機器が測定できない濃度でも人はアオサの腐敗臭を感じている。

(P6 左側 : 谷津干潟内のアオサ分布状況の把握方法 : 定点写真について)

委員 ・ 定点写真をモニタリング情報としてどう活かすかが重要。連続測定の値と写真をどの様に関連させるかを検討してみる必要があるのではないか。

事務局 ・ 嵩上げ試験区におけるインターバルカメラでアオサの量を把握しようと試みているが、変動があるので評価は難しい。定点写真はマクロ的に谷津干潟における大まかなアオサの量を知る目的で使いたいと考えている。

委員 ・ 目的がはっきりしているので、とてもよいと思う。定点写真から評価をするための基準を作るとよいのではないか。

委員 ・ 若松交差点の歩道橋にインターバルカメラを設置できれば、アオサが一夜にしてなくなったという様な変化が見られるのではないか

事務局 ・ 人通りが多い場所なので機器の設置は難しい。鳥獣保護区管理員による撮影等も今後検討していきたい。

(P6 右側 : 底質改良試験区の改良状況)

委員 ・ 実験結果が非常に楽しみだが、現時点で底生生物の確認状況に違いは現れているか。

- 事務局 ・ 9月に現地調査を実施し、現在結果を分析中である。次回の検討会にて、結果を報告する予定である。
- 委員 ・ ネットを張る試験区の面積は、せつくなのでもう少し広げてもいいのではないか。
- 事務局 ・ アオサの侵入を出来る限り防ぐという目的からも現在の面積で試験を行うが、当初の実験区画より狭い面積なので、ご指摘の通りスペースの小ささが影響する可能性はある。

(P7：嵩上げ試験区・杭設置試験区の状況)

- 委員 ・ アオサの量は場所毎に異なる。アオサの面積（被度）、量をエリアごとにモニタリングすることで、経月変化を把握できるのではないか。
- 委員 ・ 嵩上げ試験区周辺におけるアオサ回収活動の効果が大幅に上がったというのはどうということか。
- 事務局 ・ 杭の設置により吹き寄せられるアオサの量が減ったことと、足場としてよい場所ができたことにより、作業の効率がよくなり回収活動の効果が上がった。
- 委員 ・ 杭の設置位置について、今の位置がベストかどうかを評価するとよい。嵩上げ試験区周辺の地盤高が異なる複数の箇所アオサのツボ刈り調査を行うことにより、吹き寄せ対策に効果的な設置位置（地盤高）が検討可能。
- 委員 ・ 嵩上げ試験区は、深掘れした箇所へ砂を供給することも目的としていた。回収作業による人為的な砂の撒き散らしがない様に留意すべき。
- 委員 ・ アオサは東京湾から谷津干潟へ流入してくるものもあるので、杭は深掘れしている流入水路へ設置することも考えられる。
- 委員 ・ 谷津干潟内のアオサは、干潟の中で増殖したものが結構な割合を占めると思うので、それらの干潟内で増えたアオサが干潟外へ流出しにくくなり、逆効果になる恐れがある。
- 委員 ・ 嵩上げ試験区では、嵩上げ試験と杭設置試験の両方の効果をあわせているが、別に効果を評価した場合に、杭設置試験の効果が高いのであれば、その方が費用が少なく済む。嵩上げ試験区周辺を本来の干潟環境に戻したい。杭はその上に乗るアオサを抑制するものという位置づけで認識していた。
- 委員 ・ 嵩上げ試験区設置の目的はアオサの吹き寄せ対策であるので、干潟を再生するという目的であれば設置箇所が異なる。

(2)流路の堆積物除去試験（案）について

- 委員 ・ 図9の各対策ケースについて、現在と対策後の断面図を併せて載せてほしい。
- 委員 ・ 高瀬川のみを掘削した場合には、その前面にある三角干潟とカルバートの影響により、効果がでないのではないか。
- 事務局 ・ 東日本大震災の影響により、三角干潟及びカルバート内の地盤が下がっており、高瀬川のみの場合でも、震災以前と比べて、効果が高くなったと予想している。

- 委員 ・ 工事は東京湾の濁りへの影響に留意して実施すべき。下げ潮時に工事を行うと濁りがでることが予想されるので、上げ潮時に工事をするかどうか。
- 事務局 ・ 上げ潮時に工事をする作業時間が確保できず、工事が長期間に渡ってしまうことを懸念している。事前に工事が濁りに及ぼす影響を検討した上で施行の方法を決定する。
- 委員 ・ 堆積物の除去により県道 15 号線直下の深掘れ部分はさらに深くなる等の地形変化が予想される。モニタリングにより現場の検証をしっかりと行うべき。
- 委員 ・ 底質と水位の調査地点が異なるので合わせた方がよい。
- 委員 ・ 三角干潟の底質は 1 地点では足りない。測量も線的に実施するべきである。
- 事務局 ・ 底質は全く同じ場所ですることが困難であることから、経時的変化を捉えるという目的を踏まえ、同じ地点で複数点をとること等により精度を高める工夫をする。
- 委員 ・ 除去した堆積物の一部を試験的に干潟の深掘れ部分へ戻すことを検討してはどうか。貝殻の性状がどの様になるかをみたい。
- 委員 ・ 少量の堆積物であれば、干潟の中へ戻しても影響が現れるリスクは少ないと思われる
- 事務局 ・ 工事の実現性も踏まえ実施の可否を検討する。

### (3)住民参加イベント等の報告と今後の計画（案）

- 委員 ・ 事前申し込みという形は参加者からすると参加しにくいので、住民が参加しやすい方法を検討すべき。
- 委員 ・ 保全事業ホームページと観察センターホームページのリンクが張られていない。閲覧者の多い観察センターのホームページから保全事業ホームページをみると思う。
- 事務局 ・ 保全事業ホームページと観察センターホームページのリンクを検討するとともに、住民に興味を持ってもらえるようなコンテンツを用意する等して、まずは興味を持ってもらえる様な内容を検討する。
- 委員 ・ 第 2 回イベントについては、講師として参加することも可能である。住民と共にアオサの量をモニタリングする様な企画が考えられる。
- 事務局 ・ 講師としての参加をお願いしたい。企画内容等についてご相談する。

### (4)保全事業実施計画書の作成方針（案）について

- 委員 ・ ホンビノスガイが増えていることによる、他の生物、生態系への影響について教えて欲しい。
- 事務局 ・ 影響としては在来種の二枚貝との餌の競合や、貝殻が残ることによる場の改変が想定されるが、谷津干潟ではその影響までは見えていないのが実状。まずは、生息数、その増減に関する実態を把握することとしている。

- 委員**
- ・ 実施計画書の作成方針（案）について意見があれば、後日事務局に連絡してほしい。
  - ・ 実施計画書の実効性を確保するには、地元自治体の協力が必要不可欠である。地域住民の意見を反映させ、関係機関が協働で作りに上げてくれたことを共有することが必要

(5)その他（オブザーバからの意見）

- 千葉県**
- ・ 熱心な取組が進められていると感じた。自分がこれまで関わってきた行徳観察舎の取組と相互に参考にしていきたい。
- 習志野市**
- ・ 観察センターとともに今後も協力していきたい。保全事業において重要な取組がされていることを改めて認識した。
- 観察センター**
- ・ 段々と観察センターと連携できる部分が広がってきたと感じている。観察センターも谷津干潟の保全を目指して普及啓発の取組を進めているので、今後も益々協力していきたい。

以上